

ちょっと

昔のくらしを見てみよう part 2

梅津新聞

(近現代編③)

2020 年
6 月 2 日 火曜日常陸太田市郷土資料館
(西二町 2186)
TEL:0294-72-3201

写真 A

写真 B
(底面)

ユリエ.. はーい。

ミキ.. 今日学んでいく道具は、こちらです。【写真A・B】さて、この道具は何に使う道具かわかりますか？ちなみに進化したものは、今も使われていますよ。

ユリエ.. お鍋みたいな形をしているよ。料理に使う道具とか？

ミキ.. みなさん、こんにちは。学芸員のミキです。今日も、ちょっと昔の道具のことをクイズ形式で学んでいきましょう。

学芸員
ミキさん今日のおともだち
ユリエちゃん

写真 C

ヒント2.. 進化したがた(明治時代〜昭和30年代)【写真C】

ふたが開いて、中に炭を入れて使います。

煙突から空気を取り入れます。



ユリエ.. 分からないよー。

ミキ.. それでは2つめのヒントを見てみましょう。

ミキ.. 熱々の炭を入れるので、熱を利用した道具ということになりますね。底が平らになっているのもポイントです。



ヒント1.. 使い方

鉄の部分(黒い部分)に熱した炭を入れて使います。

ミキ.. 残念、違います。1つめのヒントを見てみましょう。

ミキ.. これから機能はどんどん進化していきますが、形の変化はあまり見られません。この形で、熱を利用しているものといったら...

ユリエ.. アイロンだあ！服のしわを伸ばす道具だね！

ミキ.. 大正解！



写真E



炭火アイロン

写真D



火のし

こて

アイロンの歴史



ミ キ…アイロンの歴史は古く、江戸時代から使われていました。【写真D左】の

道具は「火のし」といって、昭和時代初期まで使われていました。また、「火のし」と同じ時期に使われていたのが、【写真D右】の道具です。

ユリエ…棒の先端が小さいアイロンみたいな形をしているね。

ミ キ…こちらは「こて」といいます。細かいところのしわを伸ばすのに使いました。

ミ キ…「火のし」は炭を入れて使いますが、火の粉が飛んで、服に引火してしまうこともあったようです。

ユリエ…火事になっちゃうよー！



↓ アイロンの歴史年表

時代 (西暦)	できごと
江戸時代	火のし・こてが使われる
明治時代	炭火アイロンが広く使われる
明治43年 (1910)	アメリカで電気アイロンが広まる
大正4年 (1915)	初めての国産電気アイロンが登場
昭和29年 (1954)	スチームアイロンが登場
63年 (1988)	コードレスアイロンが登場

進化！

・火の粉が飛ばなくなる

進化！

・電気が使われ、温度が下がらなくなる

進化！

・温度調節ができるようになる
・水を入れて蒸気が出せるようになる

進化！

・本体からコードがなくなって、動かしやすくなる

ミ キ…その悩みを解決したのが【写真C】の「炭火アイロン」です。これは明治時代から昭和30年代まで使われていたもので、ふたがついて火の粉が周りに飛ばなくなりました。【写真E】

ユリエ…上にとつてがついているから、しわを伸ばしやすそう！

ミ キ…そうですね。「火のし」に比べて力を入れやすくなりました。

ミ キ…大正時代に入ると、電気アイロンが広まります。電気で熱しているの

で、炭火と違って途中で冷たくなる心配はありませんでしたが、初めの頃のは温度調節ができませんでした。その後徐々に便利になる工夫がなされていきました。ユリエちゃんの家で使っているコードレスアイロンは、今から約30年前に登場したんですよ。

ユリエ…コードがじゃまにならなくて便利だって、おかあさんが言ってたよ。